

■臨床心理室

1. 2017 年度目標及び方針

- 1) 業務の効率化・適正化
- 2) 公認心理師法への対応
- 3) 腎移植に伴う心理士のサポート体制の構築

2. 2016 年度評価

1) 職場環境の改善

現在心理士は常勤 4 名、非常勤 3 名の体制で業務を行っているが、面接室を事務室として使用しており全員で集まれる場所がないことが大きな問題となっている。また面接も、他科の診察室を空いている時に使用していることが多く、曜日や担当によって面接の場所が異なってしまう、患者さまにもご迷惑をおかけしている状態である。

面接室や事務室の確保は急務であったため、今年度の目標に設定し関係者への相談を重ねてきた。しかしながら現状では新たな場所の確保は困難であり、結果的にこの目標は達成できなかった。次年度は新たに常勤 1 名の入職も決まっており、またがん・生殖医療や腎移植科を始め様々な活動の広がりが予想されるため、今後も引き続き、事務室や面接室の確保を念頭に活動をしていきたい。

2) 教育体制の充実

今年度に心理室内で行った教育研修会は 3 回であった。臨床心理室内の相互研鑽、情報共有のためには、臨床心理士それぞれが 1 回は講師として、それぞれの持つ知識を共有する場は必要であり、次年度も引き続き実施していきたい。また公認心理師養成のための実習施設として実習体制の構築も必要になってくると考えられるため、実習生に対する教育体制の構築も新たな目標として設定していきたい。

3) 産後うつフォロー体制の確立

産後うつなど、産後のフォローが必要な患者さまに対する心理的な援助を行う目的で、産科入院時にエジンバラ産後うつ評価尺度で高リスクと判断されるなど、サポートが必要と考えられた患者さまに対して、産婦人科サポート外来の枠を作り、対応を行った。今年度は 3 件、計 8 回の相談を行った。

3. スタッフ構成

- ・富安哲也（常勤 室長）
- ・奈良和子（常勤 主任）
- ・上田将史（常勤 副主任）
- ・宮川智子（常勤）
- ・花田祥子（非常勤）
- ・河田幸子（非常勤）
- ・須永聖大（非常勤）

4. 業務概要、および今年度の報告

1) 外来業務

主に心療内科・精神科や小児科などから依頼のあった患者さまに対して心理療法、プレイセラピーなどの個別相談や心理検査を行っている。必要に応じて患者さまのご家族や学校関係者など、関係施設の職員との地域連携も行っている。

今年度の外来での個別相談件数は 3614 件であった。今年度は常勤 1 名の退職という事態があったにもかかわらず、昨年の 3638 件と、ほぼ同じ数の相談件数を維持しており、それぞれのスタッフが退職者の引き継ぎや新規の依頼に懸命に対応してきた結果であると考えられる。

2) 精神科病棟業務

精神科病棟入院中で医師より依頼のあった患者さまに対してカウンセリングや心理検査、家族を含む環境調整などの業務を行っている。また「創作グループ」や「生活サポートプログラム」といったグループ活動も定期的に行っている。「生活サポートプログラム」の参加者は、昨年度はのべ 71 人であったが、今年度はのべ 113 人と飛躍的に増加した。

3) リエゾン業務

心療内科・精神科や小児科の患者さまのみならず、身体疾患に伴う不安や落ち込みなどがある患者さまに対して「リエゾン活動」として臨床心理学的な介入を行っている。臨床心理士が個別に面接を行うだけでなく、精神科リエゾンチームのメンバーとしてチームでの回診や、定期的なカンファレンスにも参加している他、緩和ケアチーム、ART センターなど各科の治療チームにもメンバーとして参加している。

リエゾン業務に関する依頼件数は昨年度の 181 件から 114 件、のべ相談件数も昨年度の 488 件から 335 件と減少傾向であった。常勤 1 名の退職による影響も考えられるため、次年度の経過も踏まえて今後の方針を考えていきたい。

がん・生殖医療カウンセリング担当の奈良と宮川は、より専門性を高めるためにがん・生殖医療専門心理士養成講座を受講し、「がん・生殖医療専門心理士」の認定資格を取得した。5月に亀田 IVF クリニック幕張が開院し、がん・生殖外来において、がん・生殖医療カウンセリングを行っている。今年度から他院で治療しているガン患者の妊孕性温存紹介の相談も受付けるようになり、依頼件数は昨年度の 26 件から 44 件、のべ相談件数も昨年度の 76 件から 103 件と増加傾向にある。

また今年度は、腎移植科の開設に伴い腎移植チームが結成され、その一員として臨床心理士も加わり、ドナーとレシピエント双方に対して長期的なフォローを視野に入れた心理面でのサポート体制の構築を行った。

精神科リエゾンチーム活動においては、日本総合病院精神医学会が主催する「精神科リエゾンチーム講習会」に上田と富安がスタッフとして参加、精神科リエゾンチームの普及に努めている。

4) その他の院内業務

亀田医療技術専門学校、亀田医療大学の講師、及び学生相談室の相談員や、院内の様々な研修会において講師活動を行っている（「5. その他の活動」参照）。

5) 地域援助業務

保健センターや教育現場などの公的機関が主催するものを含め、地域で行われる様々な事業への参加、また地域で働く精神保健関連のスタッフに対してコンサルテーション活動や講演活動を行っている（「5. その他の活動」参照）。

（表1）2016年度臨床心理室面接件数

1. 外来	
小児科	261
心療内科・精神科	3210
リエゾン	135
各種心理検査	102
2. 入院	
心療内科・精神科	133
リエゾン合計	215
各種心理検査	11
3. その他	
亀田IVFクリニック幕張	14
学生相談（亀田医療技術専門学校および亀田医療大学）	20
合計	4101

（表2）2016年度 診療科別依頼件数

心療内科・精神科	147
がん・生殖	44
血液内科	21
小児科	21
A R T	6
循環器内科	6
乳腺科	5
その他	28
合計	278

5. その他の活動

1) 院内活動

富安哲也	3年目向けストレスマネジメント	院内研修会	2016年6月14日
奈良和子	当院のがん・生殖医療の取り組み	亀田IVFクリニック幕張	2016年6月30日
富安哲也	親へのアプローチを行う上でのヒント	鴨川学習会	2016年8月24日
上田将史	思春期・青年期・成人期の発達障害	リハビリ親の会	2016年9月16日
富安哲也	新人のためのストレスマネジメント	院内研修会	2016年10月4日 2016年10月11日 2016年11月1日 2016年11月15日 2016年11月29日
上田将史	嫌になっていませんか？怒っている患者さんとの関わり	院内緩和ケアレクチャー	2016年10月29日
上田将史	怒りとの付き合い方	リハビリ親の会	2016年11月18日
富安哲也	アドラー心理学で考えるより良い人間関係	アドラー心理学研修	2017年2月21日

2) 地域活動

富安哲也	平成 28 年度	鴨川市特別支援教育専門家チーム	2016 年 4 月～2017 年 3 月
富安哲也	平成 28 年度	鴨川保健センター母子支援事業相談員	2016 年 4 月～2017 年 3 月
富安哲也	平成 28 年度	鴨川市いじめ問題対策調査会委員	2016 年 4 月～2017 年 3 月
上田将史	平成 28 年度	鴨川保健センターデイケアクラブ講師	2016 年 4 月～2017 年 3 月
上田将史	平成 28 年度	心のふれあいフェスティバル実行委員	2016 年 9 月～2017 年 3 月
上田将史・ 富安哲也	平成 28 年度	心のふれあいフェスティバル相談スタッフ	2016 年 5 月 11 日
上田将史	平成 27 年度	心の健康フェア相談スタッフ	2016 年 11 月 2 日
上田将史・ 富安哲也	平成 27 年度	心の健康のつどいスタッフ	2016 年 11 月 13 日

3) 講演・講師活動

富安哲也	心理学	亀田医療大学看護学部	2016 年 4 月～ 2017 年 3 月
上田将史	心理学	亀田医療技術専門学校	2016 年 4 月～ 2017 年 3 月
上田将史	精神保健学 2	立教大学コミュニティ福祉学部	2016 年 4 月～ 2017 年 3 月
富安哲也	臨床心理士がリエゾン活動でやっていること～当院での介入事例を通して	第 21 回千葉県総合病院精神科研究会	2016 年 4 月 16 日
奈良和子	がん生殖医療心理概論	日本生殖心理学会・日本がん生殖医療学会	2016 年 4 月 16 日
奈良和子	がん生殖医療介入演習	日本生殖心理学会・日本がん生殖医療学会	2016 年 6 月 25 日
富安哲也	コミュニケーションから考えるストレスマネジメント	平成 28 年度 千葉県老健協議会主催研修会	2016 年 7 月 15 日
富安哲也	コミュニケーションから考えるストレスマネジメント	平成 28 年度 通所サービス事業所研修会	2015 年 8 月 19 日
上田将史	いのちを支える支援術～相談技術・対応技術の向上を目指して	平成 28 年度千葉市ゲートキーパー指導者養成研修	2016 年 11 月 11 日
富安哲也	自分も大事にする介護	平成 28 年度 難病家族講演会	2016 年 11 月 17 日
上田将史	がん医療における多職種との協働	上智大学「がん医療心理学」	2016 年 11 月 20 日
上田将史	臨床心理士の仕事・臨床心理士から見た地域の課題	新座市北部第二地区地域福祉推進協議会	2016 年 12 月 15 日

上田将史	メンバーさんとの関わりの中で生じる怒りとの付き合い方（スキルアップ編）	社会福祉法人にいざ	2016年12月15日
富安哲也	発達障害の特徴とかかわり方	平成28年度 勝浦市教育研究会全体研修会	2017年1月26日
上田将史	ストレスを自信につなげよう	市川市第二中学校	2017年2月24日

4) 学会・研究会活動

富安哲也	臨床心理士がリエゾン活動でやっていること～当院での介入事例を通して	第21回千葉県総合病院精神科研究会	2016年4月16日
上田将史	医療・産業・教育領域におけるコンサルテーションの実際：コンサルテーションデモンストレーションを用いた検討（その2）	日本コミュニティ心理学会第19回大会	2016年6月26日
奈良和子	総合病院におけるがん・生殖医療への取り組み	第29回 日本サイコロジ学会	2016年9月23日
上田将史	当院の新規 SST 立ち上げの経緯と現状・課題	千葉 SST ネットワーク主催「サタゼミ」	2016年9月24日
奈良和子	がん・生殖医療における心理支援の取り組みと展望	第17回千葉リプロダクション研究会	2016年10月1日
富安哲也	難しい状況にチームとしてどう関わるか～心理士の立場から	第29回 日本総合病院精神医学会	2016年11月25日
奈良和子	がん・生殖医療受診時の患者の精神状態と妊孕性温存実施時の関連性についての検討	第29回日本総合病院精神医学会総会	2016年11月25日
上田将史	コンサルテーションの位置づけ～コミュニティ心理学の立場から	第29回日本総合病院精神医学会	2016年11月26日
奈良和子	がん・生殖医療専門心理士第1回継続研修会 座長	日本生殖心理学会	2017年1月18日
奈良和子	乳がん患者の妊孕性温存における心理支援	若年がん患者の妊孕性温存に関する心理支援セミナー	2017年1月29日
富安哲也	アドラー心理学の考える発達障害へのかかわり方	東京アドラー心理学研究会	2017年3月14日
上田将史	コミュニティ心理学から見たコンサルテーション	第11回リエゾン心理士の会	2017年3月18日
奈良和子	がん患者の妊孕性温存に対する心理支援	日本 A-PART 学術講演会	2017年3月19日
上田将史	SST に役立つ動機づけ	千葉 SST ネットワーク	2017年3月25日

		主催「サタゼミ」	
上田将史	被災者に声をかけられますか？～危機的な出来事を経験した方にどう向き合えるか	千葉県理学療法士学会	2017年3月26日

5) 論文・著作

上田将史	多様なコミュニティを内包する総合病院への臨床心理学的アプローチ	コミュニティ心理学研究 20(1):11-17, 2016
宮川智子	がん・生殖医療（妊孕性温存）への取り組み	亀田ニュース 1/15日号
宮川智子	がん患者さまへの対応－臨床心理士の観点から	日本がん・生殖医療学会ニューズレター第6号

6) 研究活動

奈良和子・ 宮川智子	若年乳がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の構築	厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
奈良和子・ 宮川智子	若年がん患者に対するがん・生殖医療(妊孕性温存治療)の有効性に関する調査研究～医学的適応における妊孕性温存治療の実施状況と医療連携の実態調査	厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業
奈良和子・ 宮川智子 (分担研究)	若年がん患者に対するがん・生殖医療(妊孕性温存治療)の有効性に関する調査研究～保健所・がん相談支援センターにおける妊孕性温存治療(胚・卵子・卵巣組織)のサポート体制の実態調査	厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業

文責：富安哲也